日刊建設産業新聞（2015 年 6 月 15 日付 2 面掲載）

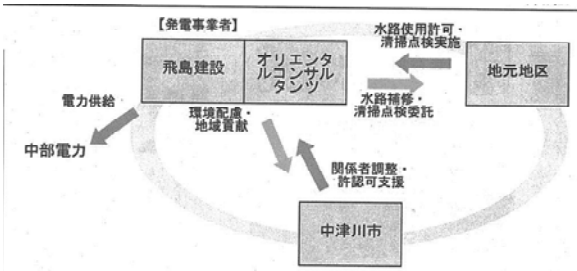
【飛島建設・オリコンサル　岐阜県中津川市内　小水力発電所を建設
パイロット事業開始、実証推進】

岐阜県中津川市内 小水力発電所を建設

パイロット事業開始、実証推進

企業、地域、官民の3連携軸に

飛島建設・オリコンサル



事業の枠組み

飛島建設とオリエンタルコンサルタンツは共同発電事業者として、岐阜県中津川市内に小水力発電所を建設し、パイロット事業を開始する。再生可能エネルギーに力を入れる両社のそれぞれの強みを生かし、計画段階から地域との相互協力と中津川市の支援をもとに進めており、企業連携・地域連携・官民連携の3つの連携を軸とし3つの連携による取り組みが再生可能エネルギー事業の新たな事例となることを目指している。今年12月の完成・運転開始を予定しており、エンジニアリング事業として事業性の実証を進める。

今回の事業では、中津川市内の落合平右地区で大正時代につくられた農業用水路の未利用落差に着目、水路の一部を発電用導水路として活用する。活用にあたっては、地域との協議をもとに、経年劣化が進んだ水路や取水設備の改修・更新を行い、農業用水路としての利便性の向上も図る。

事業主体は、飛島建設・オリエンタルコンサルタンツ特定事業共同企業体、連携官庁は中津川市、連携団体は中津川市落合土地水路管理組合、落合生産森林組合ほか。事業期間は運転開始（15年12月予定）から20年間（固定買取価格期間と同じ）。発電機器は、水車は定格出力1・36㌔㍗、最大使用水量0・25立方㍍／S、有効落差64㍍、水車形式はクロスフロー水車、年間発電電力量は95万3000㌔㍗時（300世帯相当）となっている。

主な土木建築設備について、導水路は既存の農業用水路（9・1㌔）を改修整備、ヘッドタンクは、RC造、4・5㍍×2・1㍍×3・6㍍、水圧管路φ450、FRPM管埋設430㍍、発電所建屋54平方㍍、余水路60㍍、取付道路2か所。

事業の枠組みは、建設・運転費用は両社が出資・負担（出資比50・50）し、発電した電力は、固定買取価格制度にもとづき、全量を中部電力に供給、売電する。既存の農業用水路の共用により、導水路の建設コストを抑え、劣化した箇所の入替え等によって将来の農業用水路の維持管理費用を軽減する。運転管理費用のうち、清掃、点検等といった維持管理の一部は地元地区に委託する。小水力発電を通した環境配慮の取り組みや地域貢献に対して、関係者との調整、許認可に関し地元自治体の中津川市の支援を得ている。

今後、観光資源を生かした観光・交流の促進、森林資源を活用した木質バイオマス事業、防災対策の促進など、総合的なまちづくりの取り組みへと発展させていくことを考えている。